消えゆく茅葺き家屋の保存に行政が手助けを

髙﨑　正夫

(問)　我々子どもの頃、農村集落のほとんどの家が茅葺き屋根でした。今はなかなか見られません。茅葺き屋根を維持するにはたくさんの葺きかえ費用がかかるのと茅の入手や、屋根葺き職人が少なくなったためでありますが、しかし市内には何軒かの家屋があります。所有者に保存のお願いをするだけでは負担に無理があります。貴重な文化的財産であります。保存の手助けを行政が出来ないでしょうか。また、その活用について所有者にお願いと可能性はいかがでしょうか。

(答)**教育長**　郷土の先人たちにより残された貴重な文化的な遺産を保護、保存し後世に伝えていくことは、現代に生きる私たちの大変重要な責務でございます。ご指摘のとおり、現在市内に残された茅葺きの家屋は非常に少なくなっており、当市にとって貴重な建造物であると私も認識しております。今後、文化財保護審議員の方々から適切なアドバイスをいただきながら、その家屋の保護・保存の必要性についても調査を実施し、まず、所有者の同意を得ることが絶対的な条件となることから、ご意向を伺い調査へのご協力をいただけるよう働きかけてまいります。

指定管理者制度に移行1年
老人福祉センター・第三保育所

阿部　民子

(問)　「老人福祉センター」は利用者団体の連合長寿会に3年間、「第三保育所」は㈱コビーに5年間の管理運営を指定し1年経過。市民サービス向上と効果的運営が期待されている。利用状況や運営・財務状況の把握は。

(答)**健康福祉部長**　「老人福祉センター」の利用は老人クラブの加入率が約4％減の14・2％、個人利用率も約2％減の32・3％に低下。老人クラブの加入減の理由は60歳ではまだ元気な高齢者の増加と多様な選択肢がある社会状況からと推測。浴室廃止も利用減の一因。財務状況は決算書により2100万円の委託費で賄えている。

　第三保育所は定員90名で、76名で開始、年度末は96名。保護者アンケートでは男性保育士の活用、施設清掃が行き届くなどほぼ満足。決算は3月、近日中に提出される見込み。

(問)　老人福祉センターの利用促進も含め連合長寿会に依頼したと思うが、新しい老人クラブからも理事を選出できるなど見直しで利用が広がるのでは。役員の固定化も一因では。

(答)**健康福祉部長**　自主的組織で、関われない。運営は合議制であり、本来この施設は管理業務のみで、施設運営のノウハウは要らない施設。現状で十分対応できている。

(問)　市民要望の時間延長、夜間の開館は。

(答)**健康福祉部長**　考えていない。

市民交流センター　おあしす

職員の意識改革を

(問)　市民交流センター「おあしす」は市民活動の拠点である。ポスター掲示やチラシの取り扱いが、狭く制限の強い内規により市民要望や情報発信を損ねていないか。

(答)**教育部長**　市民参画推進の立場で見直す。

全国一斉学力テストの活用は

伊藤　正勝

(問)　この4月、数十年ぶりに全国一斉の学力テストが行われた。小学6年生と中学3年生の全員を対象にしたものだが、結果の公表やその活用策について伺いたい。

(答)**教育長**　文科省の主導で、国語と算数（数学）の2教科について行われ、吉川では全ての小、中学校で実施された。結果は（別途集計）文科省が9月をメドに公表、児童、生徒には、個々にその結果が知らされる。

(問)　当然、学校間の格差などが明らかになると思うが、どこまで公表するのか。指導面の活用についてはどう考えているか。

(答)**教育長**　学校間の序列化や過度の競争につながらないよう市町村名や学校名は公表されないと聞いている。調査結果を分析し、各児童、生徒に応じた学習指導に活用していきたい。

(答)**教育部長**　文科省からの通知はないが、質疑の中では市教育委員会に対し、全体の結果と各学校ごとの結果が届く。各学校にはその学校と学級ごとの結果が届くことになる。

中央中授業風景